



榎本雅夫 議員

スクール・ニューディール構想は

質問

政府・与党は新経済対策でスクール・ニューディール構想を掲げた。学校施設における耐震化と、公立校を中心に太陽光発電パネル設置などの工口改修や、情報化を推進するものである。

現在、太陽光パネルは、約1千200校に設置されているが、本市の今後の取り組みは。

教育部長

市内小・中学校では、太陽光発電パネルの重量に耐えられる構造になってないので、困難である。今後、建設時や建て替えの折に検討する。

質問

校庭の芝生化が全国的に広がる中、鳥取市が行っているポット苗移植による鳥取方式が注目されている。苗代の材料費が安く、維持管理も簡単である。

芝生のメリットは、校庭の砂ぼこりを沈め、ヒートアイランド現象を緩和する。

本市でも校庭の芝生化に取り組んでどうか。

教育部長

鳥取方式は、ティフトンと呼ばれる芝で管理面では、成長が早いので、週1回は芝刈りが必要。現在、開治小、福

質問

学校におけるICT環境の整備は急務の課題である。

電子黒板、地デジテレビの設置など、今後の取り組みは。

原分校、八開中の3校が芝生化されているが、芝刈りに費用がかかっている。校庭の利用から考えると、野球やソフトボールを行う場合、内野は芝生でないほうが競技しやすい。全面を芝生化することは慎重な検討が必要である。

教育部長

補助制度を利用して、今年度中に電子黒板を各小・中学校に1台、デジタルテレビは小学校76台、中学校35台を設置予定している。

受信方式はケーブルテレビを考えている。

質問

脳脊髄液減少症は交通事故やスポーツ障害、落下事故、暴力などがきっかけで頭痛や目まい、記憶力や気力の低下などの症状が起る病気である。プラットパッチ治療法があるが、保険適用外で患者の負担が大きいのが現状だ。

教育現場では体育の授業中の事故、部活動での事故、いじめによる暴力が原因で発症している事例もある。

本市において、児童・生徒の実態と対応は。また、理解をもらうための周知は。

教育部長

市内の小・中学校には、この症状を訴える児童・生徒はいないが、養護教諭が日常的に健康状態など把握しており、この症状以外にも教職員と協力して対応している。

愛西市養護教諭部会で平成19年7月に研修会を開催して周知を行った。他地区からの転入や新任養護教諭の認識を深めるため、本年度も研修項目に取り上げる予定である。

脳脊髄液減少症の理解と対応は

